

2014 年度事業報告書

I. この1年を振り返って

本年度も前年度に続き、「ひょうごコミュニティ財団」の立ち上げ支援をメイン事業とした一年でした。詳しくは後述しますが、立ち上げ2年目にしていよいよ「離陸」への明るさが見えてきました。KEC が前年度まで実施していた「共感寄付」がコミュニティ財団の主力事業の一つとなっているほか、年度末には初の本格的助成事業である「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」も始まりました。まだしばらく KEC の支援は必要ですが、より多方面からの支援や関与をいただいて兵庫の1つの中間支援組織として独自の役割を果たしつつあり、地域全体に大きく貢献する組織になるのも遠くないと思われま（8 ページ、事業2-①）。

NPO 支援の分野では、引き続き「認定 NPO 法人」の取得支援に注力しました。今年度は申請がゼロ（神戸市）だった昨年度から、申請 10 団体、認定 5 団体（KEC を含む）となりました。また、ここ2年ほどは認定の支援に比重を置いていましたが、そろそろ KEC の本分である一般的な相談や出前相談（アドバイザー派遣）、サロンのような交流活動にも力を戻しつつあります（4 ページ、事業1）。

東日本大震災、とりわけ「福島」の支援ですが、今年度は共感寄付の手法を活用した福島の NPO 支援「選べる！福島応援寄付」事業と、兵庫における広域避難者支援活動「避難サポートひょうご」とが中心となりました。「選べる！福島応援寄付」では福島の NPO 5 団体に対して計約 271 万円のご寄付をお預かりし、約 244 万円の助成を行うことができました。福島はじめ東日本全域から兵庫に広域避難されている 1000 名弱の方を支援するネットワーク、「避難サポートひょうごは」では、当事者および支援者による大小の集会を社会福祉協議会、生協、専門家、NPO 等とネットワークを組んで行いました（13 ページ、事業4）。

調査・提言の分野では、元々最小限の計画だったとはいえ、機関誌「みみずく」を発行できなかったことを始め、情報発信が弱かったことが大きな反省点です。来年度は体制を強化してこれを克服したいと考えています（11 ページ、事業3）。

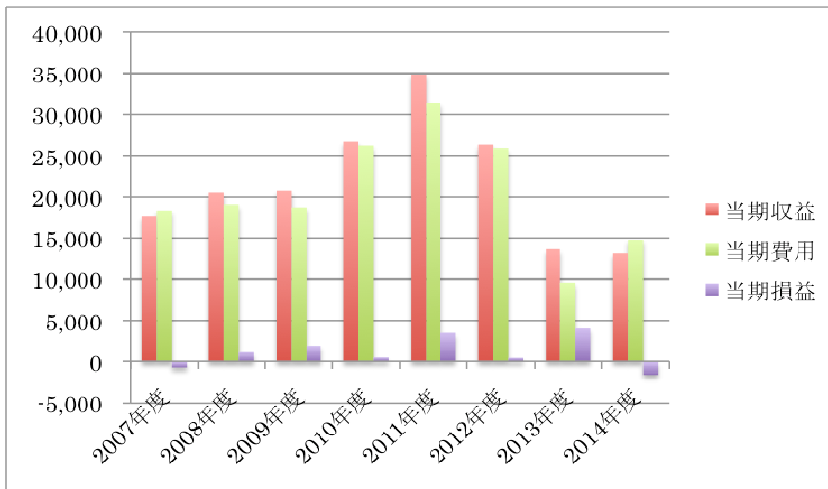
今年度は、事業面の推進と並行して、組織面、とりわけ会計・総務部門の強化を意識して進めました。外部の支援も仰ぎつつ（NPO 会計支援センター）、会計専任スタッフへの権限委譲と仕組みづくりを進めた結果、日々の会計処理や決算作業は飛躍的にスムーズになりました。この経験は NPO 支援活動にも大いに活かせると考えています。また、年度末（3月23日）には神戸市から認定を受け、2010年に国税庁から受けた認定 NPO 法人資格を継続することができました。財政的には7年振りの赤字となりました

が、組織の体質強化への投資の部分もありますのでご理解を得たいと思います。組織面ではもう一つ、年度末に久し振りに正職員を 1 名採用し、体制面の強化を図っています。

なお、2005 年に KEC の有志によって設立された「有限会社みみずく舎」は数年前から実質的に休眠状態でしたが、2015 年 5 月に正式に清算が完了しました。この場を借りてご報告いたします。

(参考)

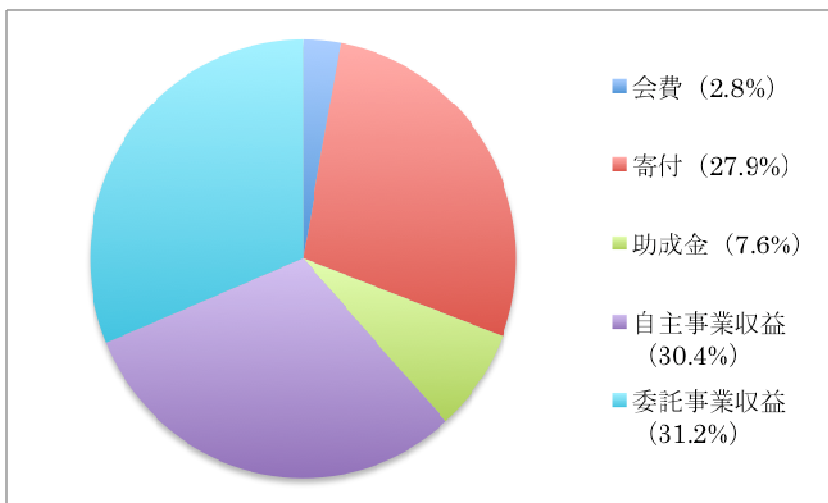
1. 損益（収支）の経年変化



※1 2009 年度までは収支計算書、2010 年度以降は活動計算書により決算しています。

※2 2013 年度は 7 月～3 月の 9 ヶ月決算でした。

2. 収入内訳（概要）



II. 事業

1. NPO 支援事業

前年度から継続している認定 NPO 法人の取得サポートや、恒例となっている「伝えるコツ」などクオリティと満足度の高いセミナーを実施しました。認定サポートでは、昨年は申請がゼロでしたが（神戸市）新制度 3 年目の今年度は 9 件の申請を後押しし、うち 4 団体が認定・仮認定を取得できました。

また、団体訪問を行ったり NPO が集まるサロンの場を開催するなど、「認定」に偏っていた支援活動を再び広げることにも着手しました。

①認定 NPO 法人相談事業

神戸市委託事業として 3 年目を迎え、市内の法人を中心に認定 NPO 法人制度についての情報提供と取得申請のサポートを実施した。その結果、過去にサポートした団体も含めて 9 団体が神戸市に認定申請でき、うち 4 団体が認定・仮認定 NPO 法人を新たに取得した。（団体数は当会除く。また、のこり 5 団体のうち 2 団体は継続審査中）

◇今年度の認定取得法人

(特活)ローンボウルズ日本

(特活)まち・コミュニケーション

(特活)女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ

(特活)市民活動センター神戸

(特活)こどもコミュニティケア[仮認定]

相談および支援内容はこれまでの 2 年に比べて多様化している。例えば、歴史も長く活動内容が高く評価されながらも法人の事務処理での課題から認定申請を取り下げた法人がいくつもあるなど、法人の事務力全般に関する課題が特に見られた。認定 NPO 法人化に対する期待感を強く感じる一方で、寄付者への寄付控除の存在が認定取得への強い動機付けとなっていない印象も見受けられるなど、認定を取得することの新たな意義を伝えていきつつ、より多くの NPO 法人へのアプローチを試みる必要があると感じている。

また、説明会（セミナー）も、昨年度内容をリニューアルした「基礎編」および「事例編」が好評を得て定着したことに加え、上記課題に対応するための「実務セミナー」を開催し、好評を博した。

※なお、年度末に行われた 2015 年度の事業公募に応募し、引き続き 3 年間事業を受託することになった。

<相談実績> 2014 年 4 月～2015 年 3 月

相談件数（団体数） 延べ 46 回（27 団体）

認定・仮認定の申請件数 9 団体（当会除く）

出張相談 6 団体 12 回（理事会等での説明、書類管理や日々業務の見直し支援等）

説明会（基礎編） 3 回開催、27 人参加

（事例編） 2 回開催、11 人参加 （※神戸市・沖本浩揮係長もゲストで参加）

(実務編) ①認定 NPO を取得した法人の担当者に聞く

[ゲスト] 認定 NPO 法人西神戸トラウマカウンセリングルーム 林由香氏
 仮認定 NPO 法人産業人 OB ネット 後藤邦彦氏

[参加者] 20 人

②NPO の事務力健康診断

[講 師] NPO 会計支援センター 荻野俊子氏

[参加者] 23 人

③証憑書類ってなに？

[講 師] NPO 会計支援センター 荻野俊子氏

[参加者] 19 人

<実施体制>

相談員、講師： 実吉 威、大島一晃

コーディネーター： 大島一晃

記 録： 池田敬子、小貫央子、星野修平（ボランティア）

②学び支援（講師派遣）事業

今年度も他事業を優先するため極力少なめに抑えた。

（担当：小貫央子、実吉威）

③神戸元町 NPO ポート事業

ひょうごコミュニティ財団に机、PC、事務機器等を提供している。現在、以前の共同オフィス（北側部屋）を整理中で積極的な入居募集はしなかった。（担当：小貫央子）

1 室	兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会（3F）
机（複数）	公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
シェアデスク	なし

④相談・外回り事業（「現場のニーズ掘り起こしと中間支援団体の支援力向上プロジェクト」）新規

現場で活動する NPO のニーズを汲み取って事業立案に活かすこと、KEC が得意とする「NPO 同士のゆるやかなつながりづくり」を行うことを目的に、以下の取り組みを行った。「ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成」を得て実施した。（担当：大島一晃、実吉威）

(1) 聞き取り調査

県内の NPO で、組織力を向上させたい・ファンドレイジングに取り組みたい・圏域を超えたネットワークを作りたい・認定 NPO の取得を目指したいと考えている団体に対し、訪問および電話にて現場の課題やニーズを聞き取った（神戸 15 団体、阪神 8 団体、播磨 7 団体、丹波 1 団体）。

(2) ネットワークミーティングの開催

1) 「縮小？なくなるの!? 認定 NPO への税制優遇の今後を考える緊急集会」

認定 NPO 法人への税制優遇縮小の可能性が議論されていることをうけ、認定 NPO 法人制度をめぐる議論を整理し情報共有・意見交換をする場を作ることを目的に開催。当会が発起人となって中間支援団体の認定 NPO 法人 4 団体での共催事業として、県内で初めて実施した。全国の支援センターの動きをつかんでいる当会の実吉より、これまでの制度改正の議論の流れや概要を説明した後、意見交換を行った。また、その様子は神戸新聞が翌々日の記事に取り上げている。

中間支援団体や認定 NPO 法人、認定取得を目指す団体など 21 名の参加者と 2 時間を超える熱心な意見交換がなされ、目の前数ヶ月の話ではなく長ければ数年におよぶ大きな動きを引き続きウォッチし、そしてその情報共有を目的としたゆるやかな場を維持していく必要があるという認識で一致した。

[日 時] 2014 年 6 月 9 日 (月) 15:00~17:30

[参加者] 17 団体 21 名 (認定 NPO 法人 9 団体 13 名、NPO 法人 4 団体 4 名、その他 4 団体 4 名)

2) おはなしカフェ

各団体が活動の歴史で蓄積してきたノウハウや知恵、経験、情報を相互に活かし、分野を超えた現場の NPO 同士の「まなびあう」ネットワークを作ることを目的に実施。お互いの顔が見え意見交換が活発に行えるよう、少人数でのラウンドテーブルを開催した。

<第 1 回> 「地域に根ざす認定 NPO を目指して」

地域からの寄付を集めたい、信用される団体になりたいと考える NPO にとって地域の信用を獲得していくために何が必要か、をテーマに「認定 NPO 法人放課後遊ぼう会」理事長・足立典子さんをお招きして意見交換を行った。

[日 時] 2015 年 2 月 12 日 (木) 18:00~20:30

[ゲスト] 足立典子氏 (認定 NPO 法人放課後遊ぼう会 理事長)

[参加者] 認定 NPO 法人や認定制度に、地域と連携に関心ある方 5 団体 6 名

<第 2 回> 『伝えるコツ』を伝え合う！

前回の「おはなしカフェ」で出された話題を受けて、人と人とのつながりや団体と団体のつながりを生み出す手段である「広報ツール」をどのように考えるか、をテーマに開催。当会の大島がファシリテーターとなって意見交換を行った。

[日 時] 2015 年 3 月 23 日 (月) 18:00~20:30

[参加者] 中間支援団体、広報強化を考える団体の担当者 3 団体 6 名

⑤その他の NPO 支援事業

○ 「伝えるコツ」セミナー事業

広告のプロ ((株)電通 白土謙二特命顧問) を講師に迎え、KEC、日本 NPO センター、電通の共催で『NPO のための広報スキルアップセミナー「伝えるコツ」を身につけよう』を開催した。今回は、これまでのテキスト「伝えるコツ 2010→2015」に新たな要素を加えたベータ版を基に、Part1~4 に分けて、豊富な事例や哲学的なお話も交えながら伝えることのキモを学んだ。

Part1 では、伝える前に考えることについてじっくり学び、Part2~4 では、具体的なコミュニケーション

ョンのコツのほか、団体の活動をさらに知っていただくためのコツや、支援者を拡大するための考え方について学んだ。

講義終了後、編集チームがファシリテーターとなり、参加者の皆さんとセミナー感想・ベータ版の評価感想ワークを行い、終了した。 (担当：辻早苗)

※KEC、(認定特活)日本 NPO センター、(株)電通の共催事業

「伝えるコツ」を身につけよう～NPO のための広報スキルアップセミナー～

日時：2015 年 3 月 12 日 (木) 10:00～17:00

会場：電通関西支社

講師：白土謙二 ((株)電通 特命顧問)

参加者：52 名

(セミナー参加者の声)

- ・目からウロコものでした。普段、NPO 関係者に広報支援として、伝える・伝わるためのコツなどの講座を開催する立場で、最も知りたい点がモヤモヤする感じだったので、今回のセミナーは、前提の前提の整理が良くされていて、分かりやすかったです。
- ・伝えたいコトを一行にするというのが印象的でした。
- ・とても濃密な内容で、午後は特にもう少しじっくりと聴きたいような内容でした。2 日間に渡る開催でもよいぐらいでした。
- ・せっかくグループになって座っているので、少しグループワークがあっても良かったかと思えます。
- ・3 月の年度末よりは、12 月までの方が比較的、その年度の自分たちの事業の参考になりやすい。また追い込みにかかる 3 月よりは参加しやすいと思えます。
- ・出来ればグループワークの時間を取るか、事前に宿題という形でも良いので、ワークが具体的に出来れば良いかと思えます。
- ・何かを伝えるには、伝える人の熱意も大切ですが、伝える相手のこともそれ以上に大切だと改めて感じました。
- ・活動が一人よがりになりがちでしたので、今回の内容にとっても満足いたしました。持ち帰って共有したいと思えます。
- ・企業も「人」であるということを改めて認識し、「人」と「人」との係わり合いの中で、どうしたらいい関係を作れるかを少しは学べたと思えます。
- ・伝えるコツのコツ。副教材は具体的な事例を見る事でとても分かりやすかったです。

○NPO アドバイザー派遣事業

引き続き、(特活)神戸まちづくり研究所が神戸市から受託、実施する「NPO アドバイザー派遣事業」に参加した。

担当支援団体：(特活)FMわいわい (担当アドバイザー＝実吉)

2. NPO のための資源仲介事業

今年度も、「公益財団法人ひょうごコミュニティ財団」を離陸させることに大きなエネルギーを割きました。2013 年夏に立ち上げた財団ですが、その 2 年目となる 2014 年度もまだ実質的には立ち上げ段階であり、KEC としては下記のように、これまでの蓄積を活かして支援を行いました。まだまだ平坦な道ではありませんが、微かながら「離陸」への光明が見えてきた 1 年でした。

KEC が各種資源を提供して支えるという面がまだ強いのは事実ですが、他方で、コミュニティ財団独自の領域も企業との関係や、ボランティアな市民参加の面で拡がりつつあります。「共感寄付」は NPO と市民をつなぎ、また NPO に「ファンドレイズ」という新領域の刺激を与える地域インフラとして定着しつつあります。また初めての助成プログラムも始まりました。

引き続き皆さまのご支援をお願いいたします。

①ひょうごコミュニティ財団支援事業

2013 年 6 月に立ち上げた「ひょうごコミュニティ財団」（同年 7 月に公益財団化）への支援を引き続き行った。

KEC が 2012～2013 年度の 2 期にわたり実施したのちコミュニティ財団に移譲した「共感寄付」プログラムは、コミュニティ財団によりさらに発展し、市民が NPO とともにファンドレイズを行う「フレンドレイザー」制度を導入するなど、NPO と市民をつなぐインフラの一つとして定着しつつある（2 期でのべ 33 事業を実施。計 6,505,421 円/552 件の寄付を集めた（2015 年 5 月 29 日現在））。さらに、共感寄付プログラムは、NPO がこれまで十分には意識を払ってこなかった「ファンドレイズ」に意識的に取り組むという意欲的なプログラムであり、NPO 支援の要素も濃い。プログラムの実施にあたって、KEC はノウハウの提供、広報面での協力等を行った。

さらに年度末にいたり大口の寄付案件が続いたが、いずれも KEC の紹介をきっかけとするものであった。そのうちの 1 つは「外国にルーツを持つ子ども支援ひょうご基金」として結実し、コミュニティ財団にとって記念すべき初の本格助成プログラムとなった。

また、年度末には KEC が 2009 年以来お引き受けしてきた住友ゴム工業株式会社様の NPO 助成「CSR 基金」も、「地域における善意の資金循環」という趣旨からコミュニティ財団に移譲した。

コミュニティ財団として資金面、ノウハウ面、社会的認知の面などいずれの面でもいまだ創設期にあり、KEC としてはまだしばらく立ち上げ支援を続ける必要があるが、「離陸」への希望を感じた 1 年であった。

③その他の資源仲介事業

1) 住友ゴム CSR 基金、ボランティア情報提供事業

1) 2014 年度 CSR 基金助成事業

本事業は住友ゴム工業株式会社の CSR 事業の一環として、マッチングギフト方式で積み立てられた基金から拠出し、①環境保全、②交通安全、③災害支援、④地域課題の解決に取り組む団体を対象に助成するものである。助成先は、KEC が推薦した団体を同社内部で選考し、助成先が決まる。本助成は使途

に制限がほとんどないため、団体にとっては活用しやすいと好評である。

2014 年度は、東播磨地域で(特活)シミズシーズ、阪神北地域で(認定特活)宝塚 NPO センターのご協力を得て、神戸地域と合わせて計 8 団体を推薦し、全団体が採択された。(担当：小貫央子、大島一晃)
採択団体一覧

助成団体	助成金額	備考
(特活)メリーポピンズの会 (宝塚市)	25 万円	継続
こうべ子どもにここ会 (神戸市)	20 万円	継続
WS ひょうご (神戸市)	25 万円	継続
うおずみん・ふるさと創生プロジェクト (明石市)	30 万円	新規
明石のはらくらぶ (明石市)	25 万円	新規
(特活)長尾すぎの子クラブ (宝塚市)	20 万円	新規
ぶらっとホーム (西宮市)	30 万円	新規
(特活)ウィズアス (神戸市)	30 万円	新規

2) ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業(神戸本社)は毎月 5 日・6 日(ゴムの日)、同社の CSR 活動の一環として、同社社員約 1500 名が県内 NPO 活動に参加できるようなボランティア活動・イベント情報(参加無料、または低額のもの)を社内イントラネットで提供している。

KEC はこうした情報を集約し提供する業務を受託している。情報集約については、複数のメーリングリスト等により行い、毎月 2~3 件ほどを取りまとめて提供した。より魅力的な情報の収集・提供と、他方で社員の参加の促進が課題である。(担当：小貫央子)

※この 2 つの事業は 2009 年度から KEC として受託してきたが、上記の通り、年度末をもってひょうごコミュニティ財団に事業譲渡した。

2) 「サンケイリビング」紙での NPO 等の情報発信

女性のための地域生活情報紙『サンケイリビング新聞(神戸西版・東版)』では、NPO 等のボランティア募集やイベント・講座(非営利で公共性の高いもの、無料もしくは実費程度の低額)などの参加者募集の記事を掲載しており、その対象となる情報の集約を KEC が担当している。2014 年度上期までは「NPO より」という単独コーナーではほぼ毎月掲載されていたが、2014 年度下期より「info,」という街のお出かけ情報コーナーと統合されたため、掲載が不定期となった。紙面スペースの都合上、掲載件数(最大 4 件)や文字の制限(110 字程度)があるものの、NPO からの情報提供は積極的であり、大いに活用されている。(担当：小貫央子)

3) SAVE JAPAN 事業

株式会社損害保険ジャパン(現、損害保険ジャパン日本興亜)から日本 NPO センターに対する寄付を原資とする委託事業を受け、県下で環境保護活動を行う団体を支援している。2014 年度は(特活)日本ハンザキ研究所を実施団体とし、神戸市内に於いて「生きたオオサンショウウオの出前観察講座」を、また朝来市に於いて「オオサンショウウオの夜間観察講座」をそれぞれ開催し、実施団体に対し助成を行った。また、このイベントの企画や当日運営にも参加した。

SAVE JAPAN イベントと連携することで、県内におけるオオサンショウウオの存在やその生息地等

について、都市部の県民に対しても広く認知していただけたと手ごたえを感じ、また、兵庫の環境や気候の多様性と恵みをイベント参加者と共に再認識するよいきっかけともなった。

(担当：池田敬子、小貫央子)

<イベント詳細>

第1回…出前講座 in 神戸「生きたオオサンショウウオが神戸の街にやってくる！」

日 時：2014年8月12日（火）11:00～12:30、13:30～15:00（2回開催）

場 所：神戸市立地域人材支援センター（兵庫県神戸市長田区二葉町 7-1-18）

講 師：岡田純博士（日本ハンザキ研究所副理事長、鳥取大学プロジェクト研究員）

参加者：61名（中学生以上 40名、小学生以下 21名）

オオサンショウウオの生息地は県内山間部の交通が不便な場所であるため、参加できる人が限られることから、神戸市内に於いて出前講座を実施した。1m40cm の生きたオオサンショウウオを水槽で運び入れ、展示パネルの説明等を見ながら、講義を受けた。オオサンショウウオを運び入れ可能な会場の確保、開催日時調整など難しい面もあったが、イベント参加者の満足度は非常に高いものであった。

第2回…現地夜間観察会「野生のオオサンショウウオに会いに行こう！」

日 時：2014年8月23日（土）19:00～21:30

場 所：黒川自然公園センター（兵庫県朝来市生野町黒川 507）

講 師：岡田純博士（日本ハンザキ研究所副理事長、鳥取大学プロジェクト研究員）

参加者：33名（中学生以上 24名、小学生以下 9名）

オオサンショウウオが夜行性のため夜間観察会となり、また観察できる生息場所が山間部で交通手段も自家用車に限られることから、参加者見込みが多少不安であったが、神戸での出前講座で興味を持った方がわざわざ足を運んでくださったりと、無事盛況に終わった。夜間の野外活動ということで、イベント参加者の誘導や安全確保等に注意が必要であった。

4) その他の資源仲介事業

今年も、明治ホールディングス株式会社および同株主の社会貢献活動の一環として行われた『お菓子寄贈プログラム』の仲介を行った（全体的なとりまとめは日本 NPO センターが担っている）。昨年を引き続き、①障がいのある子どもたちを対象とした活動をしている団体、②東日本大震災による広域避難者（県外への避難者）の支援をしている団体、が対象となった。KEC は寄贈先団体の募集を行い、応募のあった 5 団体を推薦し、すべてが寄贈を受けた。

(担当：小貫央子)

寄贈団体一覧

(特活) こどもコミュニティケア (神戸市)
(社福) 神戸真生塾 (神戸市)
東日本大震災・暮らしサポート隊 (神戸市)
避難サポートひょうご (神戸市)
(特活) 生涯学習サポートひょうご (姫路市)

3. 調査研究、政策提言事業

2014 年度も大きな制度改正はありませんでしたが、昨年度以来、認定 NPO 法人の税制優遇内容の見直し、縮小の可能性が政府関係から伝わってきていたため、これに対するアクションを県内の認定 NPO 法人のネットワークを作って行いました。この件は今後は注視していく必要があります。

認定 NPO 法人制度は運用 3 年目となり、具体的な課題もいくつも見えてきました。認定 NPO 法人相談事業(事業 1-①)とも相まって、所轄庁とよりよい制度運用への意見交換を重ねています。

①NPO やまちづくりに関する調査、政策提言事業

1) 認定 NPO 法人制度の税制優遇削減への動きに関する対応

政府の税制調査会等で、「みなし寄附金」「税額控除」などが見直される可能性が浮上したため、県内の認定 NPO 法人らが集まり情報共有と発信をする場を開催した。

⇒ 事業 1-④「(2) ネットワークミーティング」

1) 「縮小?なくなるの!? 認定 NPO への税制優遇の今後を考える緊急集会」 参照

※事業の意味合いとしては本項目で述べるべきだが、事業 1-④「相談・外回り事業」の一環として開催したため、詳細は同項に記した。

2) ひょうご中間支援ネットワーク&「手引き」プロジェクト

手引きプロジェクトチーム (PT) は実質的に休止状態だったが、2 月に現行手引きの改訂へ向けた PT が再始動した。メンバーに実吉の他、諏訪理事も加わった。(担当: 実吉威、諏訪晃一、谷侑衣子)

※新年度から谷職員が加わった。

②機関誌「みみずく」発行事業

今年度は機関誌「みみずく」を発行できなかった。体制の弱さが一因であるが、大いに反省したい。新年度は早期に発行したい。

③役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等

団体 (KEC)、個人 (中田、実吉、藤本) として以下の団体、ネットワークの役員・会員、および審議会等のメンバーとなった。

(団体)

- ・ひょうご市民活動協議会 (会員)
- ・ひょうご中間支援ネットワーク (全体会メンバー、および手引きプロジェクトチームメンバー)
- ・日本 NPO センター (会員)
- ・市民ファンド推進連絡会 (世話団体)
- ・NPO 法人会計基準協議会 (世話団体)

(個人)

- ・ひょうご市民活動協議会 運営委員 (実吉)
- ・神戸市・すまい審議会 委員 (実吉)
- ・神戸市・神戸市における今後の都市空間のあり方についての勉強会 (実吉)
- ・神戸市・中間支援 NPO と行政の意見交換会 メンバー (実吉)
- ・(特活)市民社会創造ファンド 運営委員 (理事) (実吉)
- ・住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」選考委員長 (実吉)
- ・NPO 広報力向上委員会 委員 (実吉)

4. 東日本被災地支援事業

引き続き福島県を重点支援先として、東日本大震災の支援活動を行いました。今年度は兵庫県に避難されている方を支援する活動のネットワーク、「避難サポートひょうご」の取り組みとともに、新たに「共感寄付」の枠組みを活用した「選べる！福島応援寄付」を実施しました。この事業により約 271 万円のご寄付をお預かりし、福島の NPO 5 団体に計 244 万円の助成を行うことができました。

①被災地・避難者支援

○避難サポートひょうご

2012 年度から継続している「避難サポートひょうご」を今年度も引き続き活動した。

福島県を中心として、東日本大震災による広域避難者が兵庫県に避難してきておられ、その数は 2011 年の秋をピークに少しずつ減っているものの、現在も公的に把握されているだけでも 342 世帯 845 名におよぶ（2015 年 3 月 27 日現在）。避難サポートひょうごはその支援に携わる団体の横の連携とメッセージ発信のためのネットワークで、兵庫県社会福祉協議会、コープこうべ、NPO、YMCA、各種専門家団体など約 30 の支援団体および当事者団体から構成される。今年度は下記の活動を行った。

次年度（2015 年度）秋に、避難者・支援者らによる大交流会を実施したいという要望が高まり、年度末からそれを視野に入れて準備を進めている。（※1）

また、年度末には 2013 年春に作成した共同の広報チラシを改訂、8500 部を印刷して構成の各団体で活用したほか、兵庫県から県内の避難者に個別発送していただいた。（担当：辻早苗、実吉威）

※1 その後、2015 年 9 月 5 日（土）に実施が決まった。

2014 年

4 月 21 日 事務局打ち合わせ（KEC にて；参加 5 名）

6 月 18 日 世話人会（KEC にて；参加 9 名）

8 月 8 日 全体会（神戸 YMCA にて；参加 21 名）

11 月 4 日 世話人会（KEC にて；参加 8 名）

2015 年

1 月 5 日 避難者交流会（コープこうべ健保会館にて；参加 22 名）

2 月 18 日 世話人会（KEC にて；参加 9 名）

3 月 「避難サポートひょうご」チラシ第 2 版の編集、発行（8500 部）

○福島＝兵庫ブリッジプロジェクト

（特活）うつくしま NPO ネットワーク（UNN）、（特活）サインポスト、（特活）シミンズシーズ、それに当会の 4 団体でネットワークを形成し（事務局＝サインポスト）、兵庫から福島を応援しつなぐプログラムを企画中である。今年度は情報交換、将来の企画準備にとどまった。（担当：実吉威）

② 「選べる！福島応援寄付」事業 **新規**

「共感寄付」のスキームを応用し、福島の被災地支援の一環として、福島県内の NPO を対象とした寄付募集・資金助成のプログラム「選べる！福島応援寄付」を実施した。

まず、福島の間接支援組織（注1）のご協力を得て、4月に支援先の候補をリストアップした。次に、その中から、理事会で下記5団体を選定し、5月末に専用 Web サイトを仮オープン、7月に本格的に寄付募集を開始した。8月27日から30日にかけて、中田と諏訪が、「福島やさしい畑」以外の参加4団体の事務所や活動現場を訪問し、各団体の活動状況を確認した。これとは別に、中田が「福島やさしい畑」を訪問した。

広報面でも一定の成果があり、具体的には、神戸新聞の記事として掲載された（2014年8月13日付・社会面）。また、結果として記事には掲載されなかったものの、福島県庁にて、中田と諏訪が記者会見を行うことができた（8月27日）。

本プログラムを通じて、総額2,715,000円（47件）（注2）のご寄付をいただいた。寄付総額の10%を運営経費として除いた額を原資として、10月の理事会で審議の上、KECから各団体に助成した。最終的な助成額は下記の通りである。

本事業を通じて、現地に根差して活動している優れた NPO と出会うことができたのは、大きな収穫であった。また、東日本大震災の発生から年月が経つ中で、当会が遠方からの支援プログラムを新たに企画したことについて、福島の各参加団体からは、一様に歓迎の意向が示された。一方で、本プログラムの実施過程では、福島への関心の低下を実感させられることも少なからずあり、今後の課題となった。

（担当：中田理事長・諏訪理事・実吉威・大島一晃・池田敬子）

助成団体	金額
(特活)福島やさしい畑～復興プロジェクト	1,723,500 円
(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会	238,050 円
(特活)移動保育プロジェクト	165,150 円
(特活)コースター	153,900 円
(特活)ふくしま新文化創造委員会	162,900 円
5団体の合計	2,443,500 円

（各団体はいずれも福島県内に主たる事務所を置く法人）

（注1）(特活)うつくしま NPO ネットワーク、及び、一般社団法人ふくしま連携復興センター

（注2）件数は、延べ件数で、例えば、1人の寄付者の方が2団体に寄付した場合、「2件」と数えた。

Ⅲ. 組織

1. 会議

○2014 年度通常総会

日 時 2014 年 6 月 13 日 (金) 18:00~19:30

場 所 神戸市立まちづくり会館 2 階ホール (神戸市中央区元町通 4 丁目 2-14)

出席者 正会員 47 名 (うち書面表決または表決委任者 38 名) (正会員総数 71 名)

審議事項 第 1 号議案 2013 年度事業報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 2 号議案 2013 年度決算報告案承認の件 (全会一致で承認)

報告事項 2014 年度事業計画ならびに活動予算

○理事会

	開催日	審議事項	出席者
第 65 回	2014 年 6 月 4 日 (水) 18:00~20:30	・総会議案 (2013 年度事業報告案、決算案) 承認の件 ・2014 年度事業計画・予算修正の件	理事 9 名 (うち表決委任 3 名)、監事 1 名
第 66 回	2014 年 1 月 13 日 (火) 16:00~18:00	(審議事項なし)	理事 9 名 (うち表決委任 3 名)、監事 2 名
第 67 回	2015 年 3 月 26 日 (木) 17:00~19:00	・2015 年度事業計画案、予算案承認の件 ・役員報酬規程、給与規程承認の件	理事 9 名 (うち表決委任 1 名)、監事 2 名

2. 会員

	2010 年度末	2011 年度末	2012 年度末	2013 年度末	2014 年度末実績 (前期比)
正会員	73	72	72	71 名	70 名 (▲1 名)
賛助/個人	25	38	4	16 名	14 名 (▲2 名)
賛助/団体	6	7	0	5 団体	4 団体 (▲1 団体)
利用/個人	2	5	1	3 名	0 名 (▲3 名)
利用/団体	3	7	1	1 団体	0 団体 (▲1 団体)
購読	0	0	0	0	0
計	109	129	78	96	88 名/団体 (▲8)
(下段=正会員以外)	36	57	6	25	18 名/団体 (▲7)

2014 年 6 月 5 日、有限会社みみずく舎の元職員であった正会員の狩野育子さんをご逝去されました。生前のご貢献に心より感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

3. 役員

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

理事 中田豊一（理事長）	理事 桑原英文	理事 山下淳
理事 森田博一（副理事長）	理事 実吉威	監事 飛田雄一
理事 雨森孝悦	理事 諏訪晃一	監事 宮崎洋彰
理事 磯辺（東方）康子	理事 早瀬昇	

任期：2013年9月7日～2015年度通常総会終了時

※2015年6月12日総会にて、理事・監事を改選予定。

4. 事務局

・事務局職員

	KEC 本体	コミュニティ財団と兼任
常勤スタッフ		実吉威（事務局長）
非常勤スタッフ	大島一晃 小貫央子（2014/6～） 辻早苗（2014/10～）	山崎ゆり 古寺瑞代（～2014/8）

※2015/4 から、常勤職員・谷侑衣子が入職した。

・事務局ボランティア 星野修平

（敬称略）